



炭焼き窯を作る三沢区の区民有志

“三沢産”の炭焼こう

岡谷 区民有志が窯作り

岡谷市三沢区(山之内寛区長)の区民農園利用者の有志が高尾山のふもとの公園に炭焼き窯を作っている。県内各地の窯を視察し、炭の焼き方を学んで「三沢産」の炭作りに取り組む方針だ。10人ほどの区民が石を積み、土を盛って、木材で屋根を作る作業に励んでいる。

農村の原風景づくりや子どもたちに農業や伝統文化を伝える取り組みの一環。昨年春から炭焼き窯について本格的に学び、準備を進めてきた。

窯は円形で内部の直径は約2.5メートル、高さは1.3メートル。上部はアーチ状にする。石積み後は木材を詰めて粘土状の土で覆い、窯に火を入れ、土を固

めて完成させる。長く使えるよう雨や雪を防ぐ木製の屋根を設ける。

炭の材料となる木材は同区有林の間伐材を活用する。炭焼きには、地元の子供会や児童養護施設つじけ丘学園の子どもたちにも参加してもらい「以前のむらの姿」を体感してもらおう予定だ。炭は販売するほか、畑の土壌改良材、地域の河川の浄化などに活用するという。

窯作りでは区民農園の有志が手分けをして和気あいあいと作業を進めていた。壁作りでは隙間ができないよう、慎重に取り組んでいた。窯は年内をめどに完成させる方針。藤岡豊八副区長(67)は「みんなで協力し、楽しく生きがいを持って作業を進めている。この窯が次世代に農と文化を伝える一つの場所となれば」と話している。(野村知秀)